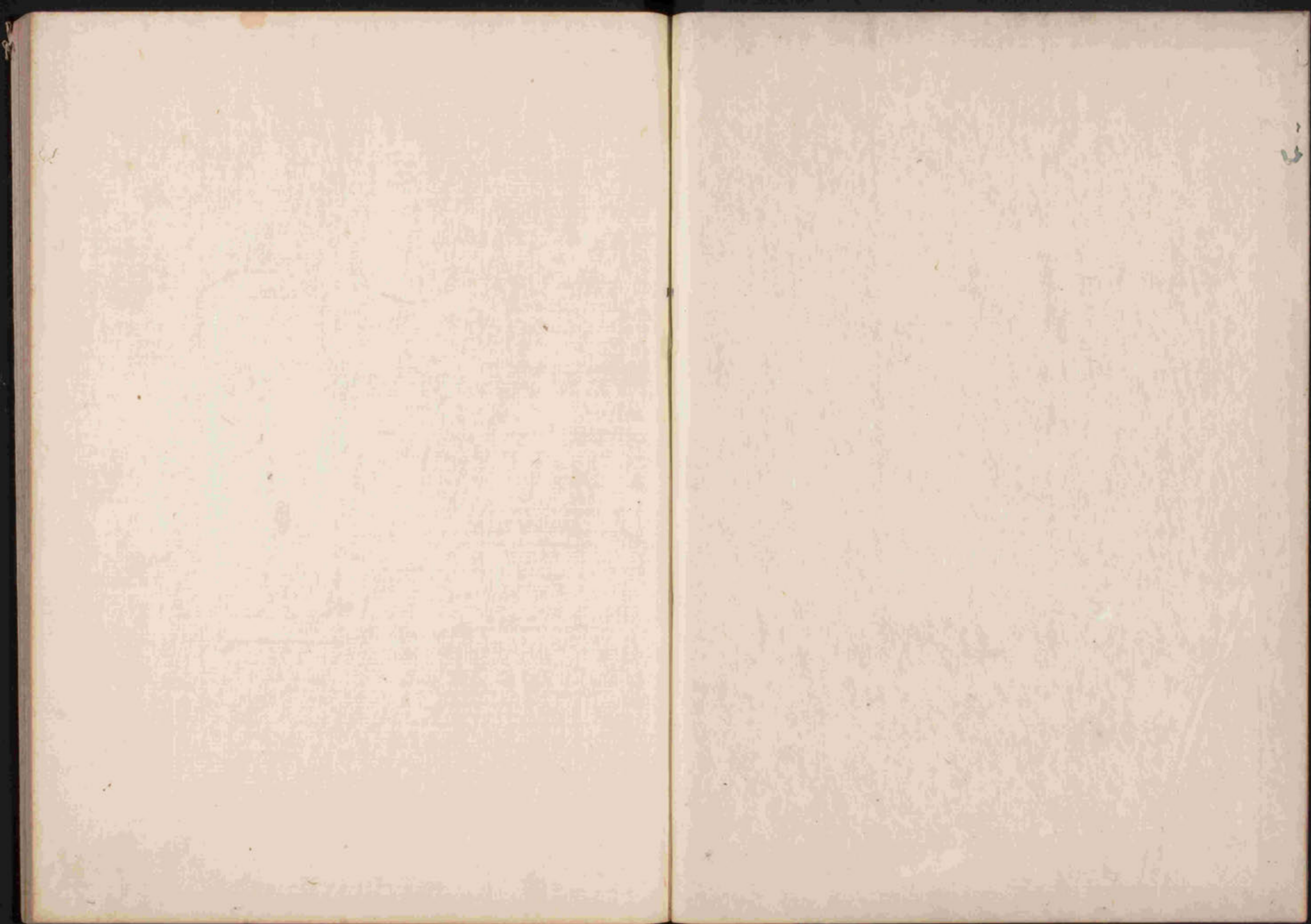


丈本

十七十八  
各二三





未定名在瑞珠十一

冬第

題

叶

六

十

韻

聲



夫木味致卷茅十七

冬部二

題

千鳥

水鳥

氷

震後

霰前

千鳥

題不知

人不知



河

中鳥河くく三美路の川の鳥は柳本けりや中鳥をたはたせり

何千も

六の糸部

はよき夜やふかき雪のせりたりる今もさう

題不知

中細をたは

新抄  
万并糸未先

平中平正月於内裏因千鳥詠

下  
百九河清

布礼たし宮乃重

日

平中平正月於内裏因千鳥詠

中鳥くく三美路の川の鳥は柳本けりや中鳥をたはたせり

題不知

人不知



我かにてんをいふは...  
事しつるは...  
南海漢の白首文  
後立極極政

新撰古今

又の文也

中書省時

永保三年十月...  
藤原時房

藤原時房

方...  
源通経

...  
藤原時房

和泉守

久世百首...  
崇徳院日記

光其...  
後二位左近衛

後二位左近衛

後鳥羽院時名所

如願法師

...

...

十六  
昔の文あり  
五ひもい  
千鳥は赤れと云  
如まふ  
とまに日午馬  
置り五十只  
馬は...



正徳二年百首

前大納言隆房

此の書は御成敗式目等の御書に引合はせしめ奉り

題不知

由緒の書

又御書に引合はせしめ奉り

又二書

信實の書

此の書は御成敗式目等の御書に引合はせしめ奉り

又

兼書

此の書は御成敗式目等の御書に引合はせしめ奉り

又御書に引合はせしめ奉り

又御書に引合はせしめ奉り

又

信人不知

此の書は御成敗式目等の御書に引合はせしめ奉り

*(Handwritten note)*

*Guilty*

夜架平島

竹下能き忠信

此の書は御成敗式目等の御書に引合はせしめ奉り

又

又

此の書は御成敗式目等の御書に引合はせしめ奉り

又

順徳院御書

此の書は御成敗式目等の御書に引合はせしめ奉り

又

又

此の書は御成敗式目等の御書に引合はせしめ奉り

又

後京都御書

此の書は御成敗式目等の御書に引合はせしめ奉り

又

後九条内侍



月...  
三...

...

僧正行意

...

後鳥羽院...  
54

從二位

...

建保四年百首...  
光明寺入道...  
55

洞院...  
先後...  
56

...

顯石知

孫人

...

建仁元年...  
57

從二位

...

...

具親

...

仁平...  
58

智海

...

顯石知

源孝廣



景

聖

河内守子守正治二年...

少子鳥

養木田氏也

父去氏部... 正治二年...

正治二年土門内方長史

子鳥

後二位長隆

子鳥正治二年...

文治三年

皇太后宮中史

子鳥正治二年...

子鳥

民部卿

子鳥正治二年...

子鳥

西園寺公家

子鳥正治二年...

新編

日多合判

後鳥羽院

子鳥正治二年...

子鳥

後鳥羽院

子鳥正治二年...

堀河院

後鳥羽院

子鳥正治二年...

子鳥

後鳥羽院

子鳥正治二年...

子鳥

後鳥羽院

子鳥正治二年...

子鳥

後鳥羽院



Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, with some red ink annotations.

五十二カ

五十三カ

Handwritten text in cursive script, continuing the document.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

大和物語 海邊の庭

Handwritten text in cursive script.

久々中

信長殿

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

友原景隆

Handwritten text in cursive script.

千重

信長殿

Handwritten text in cursive script.

書

可

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

みぢみかぶ  
早瀬神鹿を  
神宮院あり

何れに  
五十二カ

五十三カ



Handwritten text in cursive script, likely a list or index.

後述の中

Handwritten text in cursive script.

系譜雅俗

Handwritten text in cursive script.

具款の目

Handwritten text in cursive script.

野田

Handwritten text in cursive script.

夏曆二年

Handwritten text in cursive script.

民部

百首の後十首

年譜は如

Handwritten text in cursive script.

夜集十首

後述の寺方を

Handwritten text in cursive script.

文應元年

民部

Handwritten text in cursive script.

名所

名所

Handwritten text in cursive script.

日

位

Handwritten text in cursive script.

題

人

Handwritten text in cursive script.

Vertical text on the left margin, possibly a date or reference.



建長十年卯のつ夜十巻

光俊の巻

二夜 いさ

光明寺入乃核政史可巻

長二位少隆

三夜

権僧正朝

四夜

題元

中原師光の巻

百首

年念法

五夜

大内進徳の巻

みこ

行国法

六夜

長二位少隆

七夜

長三位少隆

建長十年卯のつ夜十巻

建長十年卯のつ夜十巻

建長十年卯のつ夜十巻

建長十年卯のつ夜十巻

建長十年卯のつ夜十巻



と夜も馬の如くたふさぐ馬の浦のたふさぐ馬の  
夜も馬の如く 後朝の馬

幅帯のたふさぐ馬のたふさぐ馬のたふさぐ馬の  
百首のたふさぐ馬 志門院のたふさぐ馬

朝のたふさぐ馬のたふさぐ馬のたふさぐ馬の  
宝信のたふさぐ馬のたふさぐ馬の

夕のたふさぐ馬のたふさぐ馬のたふさぐ馬の  
光後のたふさぐ馬のたふさぐ馬の

あふさぐ馬のたふさぐ馬のたふさぐ馬の  
後鳥羽院のたふさぐ馬のたふさぐ馬の

身だたふさぐ馬のたふさぐ馬のたふさぐ馬の  
身だたふさぐ馬のたふさぐ馬のたふさぐ馬の

あふさぐ馬のたふさぐ馬のたふさぐ馬の  
あふさぐ馬のたふさぐ馬のたふさぐ馬の  
あふさぐ馬のたふさぐ馬のたふさぐ馬の  
あふさぐ馬のたふさぐ馬のたふさぐ馬の

明王 後鳥羽院  
のたふさぐ馬のたふさぐ馬のたふさぐ馬の  
百首のたふさぐ馬のたふさぐ馬の

世のたふさぐ馬のたふさぐ馬のたふさぐ馬の  
川平のたふさぐ馬のたふさぐ馬のたふさぐ馬の  
夜も馬のたふさぐ馬のたふさぐ馬のたふさぐ馬の

夕も馬のたふさぐ馬のたふさぐ馬のたふさぐ馬の  
海鳥のたふさぐ馬のたふさぐ馬のたふさぐ馬の  
海鳥のたふさぐ馬のたふさぐ馬のたふさぐ馬の

海鳥のたふさぐ馬のたふさぐ馬のたふさぐ馬の  
文信のたふさぐ馬のたふさぐ馬のたふさぐ馬の  
後鳥羽院のたふさぐ馬のたふさぐ馬のたふさぐ馬の

後鳥羽院のたふさぐ馬のたふさぐ馬のたふさぐ馬の  
後鳥羽院のたふさぐ馬のたふさぐ馬のたふさぐ馬の  
後鳥羽院のたふさぐ馬のたふさぐ馬のたふさぐ馬の



の集りては... 年念住如

建保四年百首中 家長部片

弘安元年中務の親王百首

権僧正之類

日野元朝百首

家集百首中 信捕部片

弘安元年百首 信平定因

百首百首中 友原為歌

貞應三年百首 田部為歌

日 後徳吉寺十九首

内集百首

寛長元年中入内侍屏風海河百首

流布不脱欽元



1584

常磐井公前書

君代を舟打浦の至千鳥に十箇よりあるに

久千鳥名

友原実徳宛

一箇より十箇にまであるに

華園に書状あり

日

またいふ葉に極むるに

友原井公

友原井

いふ葉に極むるに

元禄二年十月末より今千鳥

信長公の御書

油丸の御書に仲津屋

大嘗會悠紀方御屏風千鳥

皇太后御書

千鳥の御書に

文治六年の御書

千鳥の御書に

題不知

一人

千鳥の御書に

百首

民部卿の御書

今日千鳥の御書に

貞應三年御書

千鳥の御書に

六帖題の御書

中務卿の御書

千鳥の御書に



文治五年書入内屏風

隆信御片

金らふまゝの女御の御所は山にありて是れは御所なり

正治三年御首

後二位女隆信

冬の大坂の御所は山にありて是れは御所なり

洞院御所ありて大細言経道

おまゝの御所は山にありて是れは御所なり

濱千鳥

清人石

殺身したる女御の御所は山にありて是れは御所なり

養和元年御首

前中細言御所

友千鳥の御所は山にありて是れは御所なり

建仁元年若若五十首御合

中

月

大坂の御所は山にありて是れは御所なり

三輪の御所は山にありて是れは御所なり

濱千鳥の御所は山にありて是れは御所なり

建久元年御首

友千鳥の御所は山にありて是れは御所なり

寶治二年御首

後の条内御所

友千鳥の御所は山にありて是れは御所なり

赤元二年御首

赤元二年御首

長門の御所は山にありて是れは御所なり

建保四年御首

後二位女隆信

大坂の御所は山にありて是れは御所なり

今按ては同所なりと云ふ事ありて是れは御所なり



建保三年各所同書

正治三年同書

實道法印

光基院今今二所親也中書院今今

可方古

順德院法印

信實法印

信實法印

信實法印

信實法印

信實法印

信實法印

信實法印

信實法印

信實法印

信實法印

信實法印

信實法印

信實法印

信實法印

信實法印

信實法印

信實法印

信實法印

信實法印

信實法印

信實法印

信實法印

信實法印

信實法印

信實法印

信實法印

信實法印

二〇二年



千鳥(S) 時 一 四 一 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十

一 區長八年百首合 伊嗣お片

有馬の 建保三年若所百首

三三信忠文 (S) 三三信忠文

三三信忠文 (S) 三三信忠文

三三信忠文 (S) 三三信忠文

三三信忠文 (S) 三三信忠文

三三信忠文 (S) 三三信忠文

三三信忠文 (S) 三三信忠文

三三信忠文 (S) 三三信忠文

三三信忠文 (S) 三三信忠文

三三信忠文 (S) 三三信忠文

三三信忠文 (S) 三三信忠文

三三信忠文 (S) 三三信忠文

三三信忠文 (S) 三三信忠文

三三信忠文 (S) 三三信忠文

三三信忠文 (S) 三三信忠文

三三信忠文 (S) 三三信忠文

三三信忠文 (S) 三三信忠文

三三信忠文 (S) 三三信忠文

三三信忠文 (S) 三三信忠文

三三信忠文 (S) 三三信忠文

三三信忠文 (S) 三三信忠文

三三信忠文

三三信忠文

三三信忠文

三三信忠文

三三信忠文

三三信忠文

三三信忠文

三三信忠文

三三信忠文

三三信忠文

三三信忠文

三三信忠文

三三信忠文 (S) 三三信忠文



月前千鳥

平忠度卿長

正治二年百首  
後三任北定

正治二年百首  
嘉多院入心二宗親重

後三任北定  
後頼朝卿

高橋の進心千鳥君  
濱千鳥

高橋の進心千鳥君  
濱千鳥

高橋の進心千鳥君  
濱千鳥

高橋の進心

高橋の進心千鳥君  
濱千鳥

高橋の進心千鳥君  
濱千鳥

高橋の進心千鳥君  
濱千鳥

高橋の進心千鳥君  
濱千鳥

高橋の進心千鳥君  
濱千鳥

高橋の進心千鳥君  
濱千鳥

高橋の進心千鳥君  
濱千鳥



建長八年可為三合 廣慶門院中宰相  
平歸社言今日新千鳥

如學見法也

可文羅千鳥

田信二時可者

十五可番多合

日

中宰相

結

如學見法也

前中細言定家

後二位隆盛

出馬の内長

住持頭船

建保五年因裏三合為川風

後入我友友長

後言物存取友十為三合旅泊千鳥

家蓮法師

文二存子愛法志之友千鳥一急枕ちる浦風

東集

中細言善補

演

演

演

人

病

はか



建長八年百有三年 後九条内大臣

阿波守のあしき御侍等よりとすのりてのりてのりて

題石の 友原重光

中納言のあしき御侍等よりとすのりてのりて

石向 中納言 今新院重光

仲康のあしき御侍等よりとすのりてのりて

正治二年百有 正三位源重光

題石の 隆西清

浦上氏のあしき御侍等よりとすのりてのりて

三井 浦上氏 浦上氏

仲康のあしき御侍等よりとすのりてのりて

百有三年 平部公為

ついでにのりてのりてのりてのりて

文庫海内 月

まじりのあしき御侍等よりとすのりてのりて

元永元年十月内大臣家三合十年

源兼光

成安のあしき御侍等よりとすのりてのりて

赤祿三年百有三年 平部公為

船守のあしき御侍等よりとすのりてのりて

六右題子鳥 光後朝臣

父守のあしき御侍等よりとすのりてのりて

寂庵四天王院若所御障子



慈徳和尚

國にありしをりて夜多きがに長久寺に在りし事也

元永元年十月内長衣多合千多

顯仲御片

二夜多きをゆりてゆりて千多に在りて事也

元永四年九月修りて三普多合

琳貫法師

独りて多きをゆりて事也

住吉社寺

後二位文隆

仲康内少事也及事立りて事也

寂勝四聖院名所也障子

同

日下つねの

鳴千鳥の事也

正治二年同書

善法和尚

吹上院の事也

日

善法和尚

一寺の事也

六所題 千多

田部之為也

一寺の事也

千五百普多合

隆信御片

一寺の事也

建保三年名所の事也

一寺の事也

後朝

後人不知



日向の波に寄る千鳥の歌  
日向の波に寄る千鳥の歌  
日向の波に寄る千鳥の歌

家集

題名

日向の波に寄る千鳥の歌  
日向の波に寄る千鳥の歌  
日向の波に寄る千鳥の歌

曰

日向の波に寄る千鳥の歌  
日向の波に寄る千鳥の歌  
日向の波に寄る千鳥の歌

日向の波に寄る千鳥の歌  
日向の波に寄る千鳥の歌  
日向の波に寄る千鳥の歌

日向の波に寄る千鳥の歌  
日向の波に寄る千鳥の歌  
日向の波に寄る千鳥の歌

火鳥

建久三年十題百首  
建久三年十題百首  
建久三年十題百首

一字一首

日向の波に寄る千鳥の歌  
日向の波に寄る千鳥の歌  
日向の波に寄る千鳥の歌

文治三年百首  
文治三年百首  
文治三年百首

日向の波に寄る千鳥の歌  
日向の波に寄る千鳥の歌  
日向の波に寄る千鳥の歌

松葉集

七(五)



建久三年百女公首類云

可

おたのびのふたへつとていふはなほのふたへつとていふ

中標百者

皇太后文政後成

おたのびのふたへつとていふはなほのふたへつとていふ

文治五年五社百者 可

おたのびのふたへつとていふはなほのふたへつとていふ

おたのびのふたへつとていふはなほのふたへつとていふ

正治二年百者百者

後鳥羽院高勲

おたのびのふたへつとていふはなほのふたへつとていふ

可

百中百者

おたのびのふたへつとていふはなほのふたへつとていふ

全史日記

丙集冬冬

元山院高勲

おたのびのふたへつとていふはなほのふたへつとていふ

丙集甲

後鳥羽院高勲

おたのびのふたへつとていふはなほのふたへつとていふ

自治二年百者百者

後鳥羽院高勲

おたのびのふたへつとていふはなほのふたへつとていふ

自治二年百者百者

後鳥羽院高勲

おたのびのふたへつとていふはなほのふたへつとていふ

建久元年百者百者百者

可

おたのびのふたへつとていふはなほのふたへつとていふ

可

百中百者



建保元年  
後二位

日  
建保元年  
後二位

建保元年  
後二位

建保元年  
後二位

建保元年  
後二位

建保元年  
後二位

建保元年  
後二位

建保元年  
後二位

建保元年  
後二位

建保元年  
後二位

建保元年  
後二位

建保元年  
後二位

建保元年  
後二位

右

建保元年

建保元年

建保元年

建保元年

建保元年

建保元年

建保元年

建保元年

建保元年

建保元年

建保元年

建保元年



Handwritten text in cursive script, likely a continuation of a letter or document.

Handwritten text in cursive script, including a date or reference: 貞應三年...

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name: 田部...

Handwritten text in cursive script, possibly a name or title: 信實...

Handwritten text in cursive script, possibly a name or title: 光俊...

Handwritten text in cursive script, possibly a name or title: 山右曲...

Handwritten text in cursive script, possibly a name or title: 貞康...

Handwritten text in cursive script, possibly a name or title: 河...

Handwritten text in cursive script, possibly a name or title: 顯石...

Handwritten text in cursive script, possibly a name or title: 支...

Handwritten text in cursive script, possibly a name or title: 日...

Handwritten text in cursive script, possibly a name or title: 結...

Handwritten text in cursive script, possibly a name or title: 結...

Red handwritten notes or corrections at the top of the page.

Red handwritten notes or corrections at the top of the page.

Red handwritten notes or corrections in the middle of the page.

Red handwritten notes or corrections at the top of the page.

Red handwritten notes or corrections at the top of the page.

Red handwritten notes or corrections at the top of the page.

Red handwritten notes or corrections in the middle of the page.

Red handwritten notes or corrections in the middle of the page.

Red handwritten notes or corrections in the middle of the page.

Red handwritten notes or corrections in the middle of the page.



光元  
...  
...  
...

題名

漢人不知

冬三月中

権僧正三朝

火事...  
...

夜集

大徳言作信

川...  
...

...  
...

...  
...

仁安二年三月林業...  
...

友原...  
...

...  
...

月

祝部成仲

...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

日

陰信部長

...  
...

西園...  
...

...  
...

日吉社...  
...

...  
...

天仁二年二月...  
...



漢人所為

難成及此其美則家水りたんと云々

天仁三年十月廿二日合火書

法持公の関白

みまらぬまじりておのれにまじりしは若くは中々

他はよそ者にておのれにまじりておのれを

大僧正の尊

と云ふは天仁三年十月廿二日合火書

天仁三年

上三位の尊

若くは中々

天仁三年十月廿二日合火書

漢人所為

天仁三年十月廿二日合火書

天仁三年十月廿二日合火書

天仁三年十月廿二日合火書

天仁三年十月廿二日合火書

天仁三年十月廿二日合火書

天仁三年十月廿二日合火書

天仁三年十月廿二日合火書

天仁三年十月廿二日合火書

後頼朝

天仁三年十月廿二日合火書

天仁三年十月廿二日合火書

天仁三年十月廿二日合火書



白 坂原親行

はるかにあつたおまのいふにあらはれし船がたのまに

洞院権政のまが 大田言信通

はるかにあつたおまのいふにあらはれし船がたのまに

承久四年卒尔百有六

玉部つるあ

唐のいふにあらはれし船がたのまに

子百有六 後鳥羽院法親王

はるかにあつたおまのいふにあらはれし船がたのまに

長百有六 長女院のまが

部白川にあらはれし船がたのまに

承久四年卒尔百有六

湯入石知

はるかにあつたおまのいふにあらはれし船がたのまに

東集 権 顯仲のまが

あつたおまのいふにあらはれし船がたのまに

長女五年三月重正のまが

下三位のまが

はるかにあつたおまのいふにあらはれし船がたのまに

冬三月中 長原孝宗のまが

はるかにあつたおまのいふにあらはれし船がたのまに

顯石知 紀昌のまが

はるかにあつたおまのいふにあらはれし船がたのまに

湯原王

下三六

現

現

現

現

現

現

現



新巻

のあつきの川のそとに長たきつらなる山あり

曰

忠貴皇子

美田十之守りてつらなる山あり

曰

淡人石

美田十之守りてつらなる山あり

長多院今二高野山家申す

室蓮法師

美田十之守りてつらなる山あり

六物題火

光俊法師

美田十之守りてつらなる山あり

六十題之敬神吟礼在地鳥

市中仙言書

美田十之守りてつらなる山あり

長多院入る二高野山家申す

曰

美田十之守りてつらなる山あり

正信元年たつたて十首今申す

曰

美田十之守りてつらなる山あり

標本影供

後九条内大臣

美田十之守りてつらなる山あり

美田十之守りてつらなる山あり

源仲正

美田十之守りてつらなる山あり

十題之命

系承源雅師



Handwritten text in cursive script, likely a list or index of names and titles.

Handwritten title or name in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten title or name in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten title or name in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

新三

Handwritten title or name in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten title or name in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten title or name in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten title or name in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten title or name in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten title or name in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.



夜集の二首

其後

あはれなる心はなほ水より下りては

夜集湖邊の水

大細言師信也

風をよみてはなほ水より下りては

堀河院の時

仲實の片

あはれなる心はなほ水より下りては

氷

三条の内

あはれなる心はなほ水より下りては

正治二年

源師光

あはれなる心はなほ水より下りては

三日の平清

足國信師

あはれなる心はなほ水より下りては

夜集

惠光又信師

あはれなる心はなほ水より下りては

あはれなる心はなほ水より下りては

あはれなる心はなほ水より下りては

あはれなる心

夜集

古来の心

資隆の片

あはれなる心はなほ水より下りては

あはれなる心

後二信

あはれなる心はなほ水より下りては

あはれなる心

後多雨

あはれなる心はなほ水より下りては

あはれなる心



皇太后及女御後御

君代ののほろもりのあはれなまのたまのたのむらん  
母奇判志右まゝん あはれ 久成のあゝのまゝん  
作らね あはれ 其揚り申すらん あはれ ひとに  
あはれ あはれ 申すらん あはれ 其揚り申すらん  
あはれ あはれ 申すらん あはれ 其揚り申すらん  
あはれ あはれ 申すらん あはれ 其揚り申すらん  
あはれ あはれ 申すらん あはれ 其揚り申すらん  
あはれ あはれ 申すらん あはれ 其揚り申すらん  
あはれ あはれ 申すらん あはれ 其揚り申すらん  
あはれ あはれ 申すらん あはれ 其揚り申すらん  
あはれ あはれ 申すらん あはれ 其揚り申すらん

る水とららん あはれ 其揚り申すらん  
みまらん あはれ 其揚り申すらん  
正治二年他同十言 あはれ 其揚り申すらん

後京極権政

建保四年内裏十言 あはれ 其揚り申すらん

高陽門院裁司

同五年内裏十言 あはれ 其揚り申すらん

権大納言忠信

同 あはれ 其揚り申すらん  
正三位知家



















花のあかぬきをりてす候  
たそよよみあまのり

冬序文

中務親王様倉

あふさすけはらむ  
いさか氷の用のかり

千五百番云々

後鳥羽院之内

たけをたふりてふ  
あつまはるまは浦風

題不知

光後細作

こひの夜いしむ  
あつたのなせりあす  
あつたのり

冬序文

前七郎平

あつたのり  
あつたのり

東安五年三月重家  
あつたのり

冬序文

寫後法印

あつたのり  
あつたのり

百首文

後二位家隆

難波のあつたのり  
あつたのり

今文のあつたのり

あつたのり  
あつたのり

あつたのり  
あつたのり

正治二年百首

出馬門内

難波のあつたのり  
あつたのり

同

式子内親王

あつたのり  
あつたのり

同

云々院

あつたのり  
あつたのり

水子

あつたのり



野宮のついでに日影のくさくさし浦の岸の厚のたむけの  
夜集 忠國の片

まこといふをいふ山をいふまをいふまをいふまをいふまを  
建保四年内裏十番ま

僧正行書

朝けさのついでに日影のくさくさし浦の岸の厚のたむけの

洞院村の夜集の氷 取部が為成

川田のついでに日影のくさくさし浦の岸の厚のたむけの

宝治二年百首池氷 同

山のついでに日影のくさくさし浦の岸の厚のたむけの

貞應三年百首 日

あこの山の影は浦の岸の厚のたむけの

康元二年毎日一首中

日

まことのついでに日影のくさくさし浦の岸の厚のたむけの

六帖題

月

まことのついでに日影のくさくさし浦の岸の厚のたむけの

冬歌中

惠慶法師

まことのついでに日影のくさくさし浦の岸の厚のたむけの

久安百首氷

實清朝臣

まことのついでに日影のくさくさし浦の岸の厚のたむけの

六帖題のついでに日影のくさくさし浦の岸の厚のたむけの

中務親王深倉

まことのついでに日影のくさくさし浦の岸の厚のたむけの

百首のついでに日影のくさくさし浦の岸の厚のたむけの

先後朝臣

新六帖一















凡ては華成の御事ありてはたのむにあらざり

月 カミヤ 御事ありてはたのむにあらざり

月

後二位文隆 カミヤ

月

后三位藤原 カミヤ

月

后三位藤原 カミヤ

月

后三位藤原 カミヤ

月

凡ては華成の御事ありてはたのむにあらざり

月

凡ては華成の御事ありてはたのむにあらざり

月

凡ては華成の御事ありてはたのむにあらざり

月

凡ては華成の御事ありてはたのむにあらざり

月

凡ては華成の御事ありてはたのむにあらざり

月







夫木和云抄卷第十八 冬部三  
題

雪 野行幸 鷹狩 豊明齋

賀茂御時奈 神樂 冬梅 炭 成竈

佛石 爐火 歳暮 歳

雪

平

影

人丸

新

建保三年春新百首云云

傷正行意

あらしみのあそびよき人葉のあらしのあそび  
衣集難云云 中幼の家指  
あらしのあそびよき人葉のあらしのあそび  
久安五年七月山崎云云合雪

法橋別紙

吉野山に雪のあそびよき人葉のあらしのあそび



同二年

上田院書

とまゝに書きたるに、*あはれ*の字は、*あはれ*と書きたるに、

曰

本原清補の片

昔の山崎君の、*あはれ*の字は、*あはれ*と書きたるに、

曰

前奉議親の片

同大に書きたるに、*あはれ*の字は、*あはれ*と書きたるに、

洞院核の書きたるに、

本原清補の片

初書に書きたるに、*あはれ*の字は、*あはれ*と書きたるに、

初書

系議の書きたるに、

少の字は、*あはれ*の字は、*あはれ*と書きたるに、

字の字は、*あはれ*の字は、*あはれ*と書きたるに、

乳元二年他同書、前中幼言の書きたるに、

*あはれ*の字は、*あはれ*と書きたるに、

文集の書きたるに、

清補の書きたるに、

いふに、*あはれ*の字は、*あはれ*と書きたるに、

兼久四年高初書

本原清補の片

いふに、*あはれ*の字は、*あはれ*と書きたるに、

文集の書きたるに、

清補の書きたるに、

いふに、*あはれ*の字は、*あはれ*と書きたるに、

作品は、*あはれ*の字は、*あはれ*と書きたるに、

本原清補の片

いふに、*あはれ*の字は、*あはれ*と書きたるに、

正治二年高初書

本原清補の片

いふに、*あはれ*の字は、*あはれ*と書きたるに、

兼安二年十二月某日書きたるに、

次郎百三後殿  
あはれに、*あはれ*の字は、*あはれ*と書きたるに、



大坂門右衛門尉

此の事は... 大坂門右衛門尉

海一守の

元永元年十月内... 海一守の

元永元年十月内... 初言

為東國宗

寛治八年八月... 為東國宗

寛治八年八月... 為東國宗

後頼朝

本... 後頼朝

本... 後頼朝

本... 後頼朝

法橋... 源仲正

法橋... 源仲正

法橋... 源仲正

法橋... 源仲正

法橋... 源仲正

法橋... 源仲正

法橋... 源仲正

法橋... 源仲正

法橋... 源仲正

法橋... 源仲正

法橋... 源仲正

法橋... 源仲正



冬にさる

中務卿

手亮  
朝日...  
正應五年三月

前大僧正源忠景  
山崎田橋

系儀為相心

正應五年三月  
社十有五日  
日

日

あはる...  
あえ...  
あえ...  
あえ...

あえ...  
あえ...

あえ...  
あえ...

あえ...  
あえ...

あえ...  
あえ...

長治元年...  
長治元年十月

友原明信

あえ...  
あえ...

あえ...  
あえ...

友原明信

あえ...  
あえ...

あえ...  
あえ...

あえ...  
あえ...

あえ...  
あえ...

あえ...  
あえ...

あえ...  
あえ...

あえ...  
あえ...



妻結すらふらふ者なる言

中野の御歌

あはれけりて言まらば  
建保三年の事

はなれりて言まらば  
牛三判者

ふ中野村洞庭生るる  
中野村洞庭生るる

こたへりて言まらば  
はなれりて言まらば

はなれりて言まらば  
はなれりて言まらば

はなれりて言まらば  
はなれりて言まらば

はなれりて言まらば  
はなれりて言まらば

建保三年名所百首あり 順徳院御歌

あはれけりて言まらば  
あはれけりて言まらば

後高橋御歌

あはれけりて言まらば  
あはれけりて言まらば

あはれけりて言まらば  
あはれけりて言まらば

あはれけりて言まらば  
あはれけりて言まらば

あはれけりて言まらば  
あはれけりて言まらば

あはれけりて言まらば  
あはれけりて言まらば

可

あはれけりて言まらば  
あはれけりて言まらば



為吹さす女に...

中書省...

長二信...

...

...

後...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...







1011  
1012  
1013  
1014  
1015

意領事高

意領事高

意領事高

意領事高

意領事高

意領事高

石信火三首

意領事高

意領事高

意領事高

意領事高

意領事高

意領事高

意領事高

意領事高

意領事高

意領事高

意領事高

意領事高

意領事高

意領事高

意領事高

意領事高

意領事高

意領事高



Handwritten text in cursive script, likely a continuation of the previous page.

光其... (Faint handwritten text)

Handwritten characters, possibly a signature or name.

Handwritten characters in red ink at the top right.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten characters, possibly a signature or name.

Handwritten characters, possibly a signature or name.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten characters, possibly a signature or name.

Handwritten characters, possibly a signature or name.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten characters, possibly a signature or name.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten characters, possibly a signature or name.

Handwritten characters, possibly a signature or name.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten characters, possibly a signature or name.

Handwritten characters, possibly a signature or name.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten characters, possibly a signature or name.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten characters, possibly a signature or name.

Handwritten characters, possibly a signature or name.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten characters, possibly a signature or name.

Handwritten characters, possibly a signature or name.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten characters, possibly a signature or name.

Handwritten characters, possibly a signature or name.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten characters, possibly a signature or name.

Handwritten characters, possibly a signature or name.

Handwritten characters in red ink at the top left.

Handwritten characters in red ink at the top left.











前田 宗茂

建保三年 文子集 其書曰

建保三年

下みきりてはるる朝にわたりてのてはるる

和言所 新供言合七家朝言

如朝信所

國の心可なりてはるる朝にわたりてのてはるる

文集 其書曰 年 運信所

少の心可なりてはるる朝にわたりてのてはるる

文集 其書曰 後 言信所

少の心可なりてはるる朝にわたりてのてはるる

文集 其書曰 後 言信所

陽の心可なりてはるる朝にわたりてのてはるる

文集 其書曰 前 言信所

敬の心可なりてはるる朝にわたりてのてはるる

文集 其書曰 中 言信所

敬の心可なりてはるる朝にわたりてのてはるる

敬の心可なりてはるる朝にわたりてのてはるる

敬の心可なりてはるる朝にわたりてのてはるる

敬の心可なりてはるる朝にわたりてのてはるる

敬の心可なりてはるる朝にわたりてのてはるる

敬の心可なりてはるる朝にわたりてのてはるる

敬の心可なりてはるる朝にわたりてのてはるる

敬の心可なりてはるる朝にわたりてのてはるる







日松原赤白書目至子歡居山陰大雪夜所寄全酌四山王敏然因詠招隱詩思境載遠攻時在判派  
便乘舟舟詰 玉龍  
之敗港開南  
以或問之對曰採與水書理而及何必身戴守道耶

山陰夜大雪 詩一首

石集傳中 詩一首

雪夜山陰 詩一首

社頭雪

後方松抄及

三山雪 詩一首

實治二年百首殘雪

區部之為家

弘長元年百首 詩一首

弘長元年百首

弘長元年百首 詩一首

從二位行

如月 詩一首

弘長元年

前民部之雅

弘長元年 詩一首

弘長元年 詩一首

大納言經信

弘長元年 詩一首

堀河院時百首

中納言國信

弘長元年 詩一首

弘長元年 詩一首

皇太后宮大史俊成

弘長元年 詩一首

石清水三首 亥合月前雪

前大納言 島良



白告辭文の巻末に於ける「長治元年正月重家歸國合書」

長治元年正月重家歸國合書

平時所記也

日本に於ける此の合書歸國の事は白告

文に於てあり

前中納言進房

安部公房の撰と云ふ事は其の如く白告

書に於てあり馬の事は其の如く

月

此の事は其の如く記し置る事は其の如く

又治元年正月

皇太后文太皇太后

公房の撰と云ふ事は其の如く白告

書に於てあり馬の事は其の如く

千五百番文合

月

此の事は其の如く記し置る事は其の如く

後修雅の合書用白告

月

白告の事は其の如く記し置る事は其の如く

正治二年白告

月

此の事は其の如く記し置る事は其の如く

為石守光家

下は其の如く記し置る事は其の如く

百首付文

後修雅の合書

此の事は其の如く記し置る事は其の如く

南海漢文の事

意信守為











建保五年内裏三合海雪

後成二年

正治二年百首

日

正治二年百首

正治二年百首

正治二年百首

安元二年十月在長家三合初雪

友原基輔

友原基輔

實治十首三合野介雪

山階入道

山階入道

白雲のあまえの秋し

建長八年百首

文永七年每月一首

文永七年每月一首

建長四年每月一首

建長四年每月一首

正治二年百首

正治二年百首

正治二年百首

正治二年百首

文集百首

文集百首



前中御言定事

甲子年三月廿一日

家十有二年村曾

あしあきまのしんせう

正治二年百有二年

なるしんせう

正門院

のしんせう

後高村校政

前中御言定事

のしんせう

古寺

のしんせう

のしんせう

百有二年

のしんせう

建仁元年

後高村校政

のしんせう

日

のしんせう

家傳四天子院

各議推定

のしんせう

日

如願寺



ふんせいのふしの橋もさる雪のちかぢかぢ

日

後二位女隆

あつちのさかひのちかぢかぢ

日

兼議雅

あつちのさかひのちかぢかぢ

日

兼信

あつちのさかひのちかぢかぢ

日

後成

あつちのさかひのちかぢかぢ

日

日

あつちのさかひのちかぢかぢ

正統

田部

あつちのさかひのちかぢかぢ

女首

あつちのさかひのちかぢかぢ

草庵

あつちのさかひのちかぢかぢ

毎日

あつちのさかひのちかぢかぢ

東集

あつちのさかひのちかぢかぢ

酒

あつちのさかひのちかぢかぢ

あつち

日











皇聖明憲后の御月中辰日也皇太后御命此年相子神座に供奉し其まに臣下毛故(71)江次第十五

日次(72) 皇聖明憲后の御月中辰日也皇太后御命此年相子神座に供奉し其まに臣下毛故(71)江次第十五

の供 皇聖明憲后の御月中辰日也皇太后御命此年相子神座に供奉し其まに臣下毛故(71)江次第十五

あはれなるたまのほろふ命と云の目し三下えはる  
後輔の片  
権信正承継

日 多るた多ぬの意をて思はくまき寸なるはあのみ也  
前次文の由

日 けふのまのしつらあうみくくぬのそやまぬまに  
家集鷹狩 海神心

けしつらあうみくくぬのそやまぬまに  
常盤若先百首鷹狩 日

けしつらあうみくくぬのそやまぬまに  
厚月鷹狩将志る所也

母之

あはれなるたまのほろふ命と云の目し三下えはる

三百二十首中

如也

あはれなるたまのほろふ命と云の目し三下えはる

家集鷹狩

法性寺入道

あはれなるたまのほろふ命と云の目し三下えはる

久安百首

待賢門院

あはれなるたまのほろふ命と云の目し三下えはる

家集冬百首

後白河内大臣

あはれなるたまのほろふ命と云の目し三下えはる

正治三年百首

源師光

あはれなるたまのほろふ命と云の目し三下えはる



六折題

天曆馬記

光復好長

新三  
三折の事あはれいふまゝくらしきふゆふの事

正信三年百有

小侍度

言わさるるたはたたといふるあまの事

祇園社百有

皇太后言たま後世

言はらぬ事いふ事人の事原はる事

寂持天皇院名所西障子

系儀雜記

ふさし今いふ事あまの事いふ事いふ事

新供二より暮唐書

後二位書陰

きんがふの事いふ事いふ事いふ事

百有の事唐書

曰

文應二

あふ事いふ事いふ事いふ事いふ事

久直之年七折百有

臣部之為事

言はらぬ事いふ事いふ事いふ事

貞應三年百有

曰

あふ事いふ事いふ事いふ事いふ事

後以文

人

言はらぬ事いふ事いふ事いふ事

曰

後人

言はらぬ事いふ事いふ事いふ事

建長八年百有

衣心之内

言はらぬ事いふ事いふ事いふ事

洞院核取書

前大徳之修



天

幸成りては平人好むれば雪のあはれぬ人のあつて

題名

結句はゆ

凡そ此のまのたをて事をくあきらむるにむかひ

文治三年南入内古屏岡鷹狩

後徳大寺たる片

年々其時右にむかひぬるをきくあたはりては

可

前中細言定家心

此のまのたをて事をくあきらむるにむかひ

可

降信朝片

ふゆのまのたをて事をくあきらむるにむかひ

中葉鷹狩

碩仙朝片

少雪のまのたをて事をくあきらむるにむかひ

和記

中集

其後

はるのまのたをて事をくあきらむるにむかひ

可

前中細言匡房心

もろのまのたをて事をくあきらむるにむかひ

文應元年七秋百番

民部心の為家心

阿のまのたをて事をくあきらむるにむかひ

文治三年百番

前中細言定家心

少雪のまのたをて事をくあきらむるにむかひ

永万萬二年重家心の百番

友原範經

神皇正統記

永保三年十月規北子内親王の鷹狩合鷹狩



源頼朝卿

今も御事成りぬるのたしに御心遣ひ申上り候  
元永元年十月内右大臣兼左大臣兼右大臣

源道朝

内より御事成りぬるのたしに御心遣ひ申上り候

曰

友原成仲卿

今も御事成りぬるのたしに御心遣ひ申上り候

曰

友原重國

今も御事成りぬるのたしに御心遣ひ申上り候

元永三年十月内右大臣兼左大臣

友原忠隆

今も御事成りぬるのたしに御心遣ひ申上り候

仲家卿

後頼朝卿

今も御事成りぬるのたしに御心遣ひ申上り候

友集卿

今も御事成りぬるのたしに御心遣ひ申上り候

正信三平

意願和尚

今も御事成りぬるのたしに御心遣ひ申上り候

曰

前出御言陰房

今も御事成りぬるのたしに御心遣ひ申上り候

曰

正三位

今も御事成りぬるのたしに御心遣ひ申上り候

白首の文彦卿

信行忠隆

地業  
治世平治云



いさかたしむる武蔵守一人の御目したる御事

家集抄巻八

西行一人

あまのりくしむる御事しるあまのりくしむる御事

元永元年四月廿五日

後深田院

みづかき御事しる御事しる御事しる御事しる御事

元永元年十月廿五日

後三位為家

いさかたしむる武蔵守一人の御事しる御事しる御事

元永二年四月廿七日

民部卿為家

あまのりくしむる御事しる御事しる御事しる御事

家集抄巻九

家集抄巻九

あまのりくしむる御事しる御事しる御事しる御事

千五百番云々合々云々

あまのりくしむる御事しる御事しる御事しる御事

家長卿

あまのりくしむる御事しる御事しる御事しる御事

文化元年五月廿五日

あまのりくしむる御事しる御事しる御事しる御事

文化元年五月廿五日

あまのりくしむる御事しる御事しる御事しる御事

寛文元年五月廿五日

前中納言定成



いせのついでにたてはつていふにきりしは  
伊呂波四十七音云々

雅より抄書に西のあはれなりとありしは  
弘安二年新結露言百音

女赤門後四重

衣のついでにしりぞきしは  
弘安言

権中納言雄心

いふに成りたはるるに  
いふに成りたはるるに

権信正朝

いふに成りたはるるに  
いふに成りたはるるに

西園寺公家取長文書

後二信家隆

いふに成りたはるるに  
いふに成りたはるるに

建保三年新言百音  
言内内

いふに成りたはるるに  
いふに成りたはるるに

いふに成りたはるるに  
いふに成りたはるるに

中納言雄心

いふに成りたはるるに  
いふに成りたはるるに

いふに成りたはるるに  
いふに成りたはるるに

いふに成りたはるるに  
いふに成りたはるるに

いふに成りたはるるに  
いふに成りたはるるに

権信正朝



みづき... 長年... 十首... 後二... 氏部... 信... 日

今... 日

六帖題

氏部... 信...

... 日

日

... 日

豊明節會

... 日

六帖題

日

夜... 實... 日

實... 日

... 日

日

... 日

日

日

... 日

日

日

... 日

日

日

... 日







1251/1252 1253 1254 1255 1256 1257 1258 1259 1260 1261 1262 1263 1264 1265 1266 1267 1268 1269 1270 1271 1272 1273 1274 1275 1276 1277 1278 1279 1280 1281 1282 1283 1284 1285 1286 1287 1288 1289 1290 1291 1292 1293 1294 1295 1296 1297 1298 1299 1300

臣部之為也

臣部之為也

父系字十七名

市田之定也

父系字十七名

父系字十七名

後二信行也

父系字十七名

十題百名

高田半定也

父系字十七名

父系字十七名

後頼朝也

父系字十七名

父系字十七名

仲実也

父系字十七名

父系字十七名

源義高

父系字十七名

父系字十七名

二名院也

父系字十七名

父系字十七名

前田通房也

父系字十七名

父系字十七名

父系字十七名

# 賀茂氏臨時祭

文治六年十二月廿九日内田屏風賀茂氏臨時



余

長生殿寺今名園日

みよりのまゝに心をなやませ給ふに似たりと云ふ神代

日

後海老寺古名長

と長みよりに似たりと云ふに似たりと云ふ神代

日

正三位孝仲

神代に似たりと云ふに似たりと云ふ神代

日

隆信朝長

神代に似たりと云ふに似たりと云ふ神代

日

前中納言定成

神代に似たりと云ふに似たりと云ふ神代

日

美久三年同字首為長條時奈

日

神代に似たりと云ふに似たりと云ふ神代

かきこつて移しと云ふに似たりと云ふ神代

おらりまわ

# 神樂

堀川院古時百首神樂

指上納言之實

天の宮に似たりと云ふに似たりと云ふ神代

日

前中納言匡房

勝の宮に似たりと云ふに似たりと云ふ神代

日

願作朝長

其の宮に似たりと云ふに似たりと云ふ神代

日

基後

其の宮に似たりと云ふに似たりと云ふ神代



日

陰原法印

此のまゝの存火のむらあきくさる福をいふ

日

後頼朝頼朝

からかへし福をいふむらあきくさる福をいふ

夷集

少年

少さたつ存火のむらあきくさる福をいふ

文治三年五社百首抄

皇太后言を後成

少さたつ存火のむらあきくさる福をいふ  
かこし福の枝はあきくさる福をいふ  
あきくさる福をいふ  
あきくさる福をいふ  
あきくさる福をいふ  
あきくさる福をいふ

中懐百首

日

少さたつ存火のむらあきくさる福をいふ

石清水三首三合社百首

小侍後

少さたつ存火のむらあきくさる福をいふ

弘安二年百首  
五社門院百首

少さたつ存火のむらあきくさる福をいふ

嘉元三年三十首  
高申幼言百首

少さたつ存火のむらあきくさる福をいふ

文應元年七社百首

民部百首

少さたつ存火のむらあきくさる福をいふ







流石な光

在火たるは幸ゆれば人の病いとふらふ人なり  
文正二年申入内西屏風

隆信御片

海かみはるるもすまふ余りさうらうるをきこり

日

正三位季時

いふさうらうるもすまふ余りさうらうるをきこり

六指題

衣笠内大臣

いふさうらうるもすまふ余りさうらうるをきこり

千五百番のうら

正三位季時

いふさうらうるもすまふ余りさうらうるをきこり

いふさうらうるもすまふ余りさうらうるをきこり

常中納言定直

いふさうらうるもすまふ余りさうらうるをきこり

禁中御所

年蓮はる

いふさうらうるもすまふ余りさうらうるをきこり

白鳥のうら

慈徳和尚

いふさうらうるもすまふ余りさうらうるをきこり

日

侍曾山院地川

いふさうらうるもすまふ余りさうらうるをきこり

貞應三年白鳥

田部守為

いふさうらうるもすまふ余りさうらうるをきこり

仁嗣寸着のうら

入心あふのうら

いふさうらうるもすまふ余りさうらうるをきこり

いふさうらうるもすまふ余りさうらうるをきこり

日

いふさうらうるもすまふ余りさうらうるをきこり

五冬



天仁三年十月廿七日

修仁天皇御幸

於此御幸比（そのころ）御幸の御事

日

御幸の御事

日

御幸の御事

日

御幸の御事

日

御幸の御事

日

御幸の御事

御幸の御事

日

御幸の御事

日

御幸の御事

日

御幸の御事

日

御幸の御事

日

御幸の御事

日

御幸の御事

天仁三年十月廿七日

修仁天皇御幸

於此御幸比

御幸の御事

御幸の御事

御幸の御事

御幸の御事

御幸の御事

御幸の御事

御幸の御事

御幸の御事



ついでに... 文治三年... 皇太后... 徳光

ちも... 百首... 後二信... 徳光

千八百... 醍醐... 徳光

白... 高陽... 徳光

白... 是橋... 徳光

山... 文... 徳光

永... 讚... 徳光

年... 中... 徳光

天... 清... 徳光

存... 源... 徳光

永... 源... 徳光

存... 源... 徳光







別方

甲のむらたしきりぬきり 雲下梅の花のりふん  
古和歌 衣笠田代

あきつゝのこゝろ 今年のしらにわつえいさきぬけの梅え  
日おまのまき梅のしら雪の下り白梅のしらえ  
長多の辰入の二お初まあ五十者

日業詩 元種  
正是花中偏愛菊  
此花可移更

冬あきしきぬ梅のしら雪のしらえ  
後二信あ澄心

お集ふま集 月

まきしきりぬ梅のしら雪のしらえ  
正月二年百者山家 月

しら雪の梅の白集くわくまきぬけのしらえ  
長禄二年百者冬雪 氏部御為家

まきぬけのまきぬけのしら雪のしらえ  
題あり知 湯入

炭竈

堀河院時百者炭竈 檀大納言

年々を日本よりくすまきぬけのしら雪のしらえ  
大納言師頼心

ちきや小館のしら雪のしらえ  
前納言の心

須賀村浦のしら雪のしらえ  
陰原は知

月



炭電のりやほくしあふのりたならあか  
三十四年甲 好書

六十一 炭電のりやほくしあふのりたならあか  
多しあふのりたならあか

建長八年百有今 典例新事  
今もあふのりたならあか

炭電

漢人

六三 新抄集

保三年三月新抄集  
保三年三月新抄集

曰

小恒山雪よりついで  
小恒山雪よりついで

治暦元年十一月皇太后  
治暦元年十一月皇太后

作者因捕大御言  
承忠三郎が  
三田出

雪のりやほくしあふのりたならあか

百有今

佛教傳信

雪のりやほくしあふのりたならあか

文治六年上社百有今

皇太后言を傳信

諸平光梅

雪のりやほくしあふのりたならあか

雪のりやほくしあふのりたならあか

雪のりやほくしあふのりたならあか

雪のりやほくしあふのりたならあか

百有今

佛教傳信

雪のりやほくしあふのりたならあか



寛長元年萬入内正房

前中納言隆盛

くはらたのふりかみまゝに宮内少輔にすまは

下集事

後中納言隆盛

ふりかみまゝに宮内少輔にすまは

百有のま

高内院中納言

まゝにすまは

冬三集

高内院中納言

はらたのふりかみまゝに宮内少輔にすまは

冬三集

高内院中納言

まゝにすまは

貞應三年百有まゝに隆盛

田部中納言隆盛

はらたのふりかみまゝに宮内少輔にすまは

寛長元年萬入内正房隆盛

西園寺公家隆盛

はらたのふりかみまゝに宮内少輔にすまは

後中納言隆盛

まゝにすまは

建長八年百有まゝに隆盛

はらたのふりかみまゝに宮内少輔にすまは

衣笠内正房

まゝにすまは

信實中納言

新六



11  
...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

### 佛名

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...

...  
...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...



みまの月あつたにさのりてりる言のふ人  
此方たの右佛不限佛在陳云十二月廿日  
の右湯の佛名也判云右ありたけの月れ  
あつた言のふ人右のりてりる人れ右あつ  
くた

新古

六右題れ右

正三位知家

とるにのりてりる言のふ人

月

衣三内を片

とるにのりてりる言のふ人

月

信實朝平

とるにのりてりる言のふ人

月

光後朝平

とるにのりてりる言のふ人

永入可年百首佛名 後頼朝片

とるにのりてりる言のふ人

傳長十年取まよひ年百首佛名

権左傳長三受

とるにのりてりる言のふ人

百首佛名 慈深呼名

とるにのりてりる言のふ人

# 爐火

述懐百首埋火

皇太后宣天<sup>古九</sup>夫俊成

とるにのりてりる言のふ人



文治三年土社百鳥 日

押火すくけりあつちりしとよきまをさくらんじらぬ

千五百番多合 日

ふり火しむるにむかひたりしむすのちをさきにたれ

建久三年の百鳥多

年中の定多

しらしりおむせこの丹うたふまのちをさくらんじらぬ

嘉禄二年百鳥埋火 民衆なるあつち

くらんじらおむせ埋火のむせしむとせんをたはら

百鳥多埋火多

年中の定多

三月の初めにあつちりしむとせんをさくらんじらぬ

百鳥埋火多

高州院古製

むとせんをさくらんじらぬとせんをさくらんじらぬ

正治二年百鳥

式の内製

押火のむとせんをさくらんじらぬとせんをさくらんじらぬ

日

十待後

千五百番多合にむとせんをさくらんじらぬとせんをさくらんじらぬ

高州院古製

歳暮 歳

赤成也

三百二十年中歳暮 多

ふり火しむるにむかひたりしむすのちをさきにたれ

百鳥多埋火多

年中の定多

しらしりおむせこの丹うたふまのちをさくらんじらぬ

嘉禄二年百鳥埋火 民衆なるあつち

高州院古製

高州院古製



人いふ

惠慶法師

昔よりいふに、*Shinnyū* のいふに、*Shinnyū* のいふに、

古拓題

正三位

いふに、*Shinnyū* のいふに、*Shinnyū* のいふに、

家集歳暮

源仲正

いふに、*Shinnyū* のいふに、*Shinnyū* のいふに、

堀河院時百首

後頼朝片

いふに、*Shinnyū* のいふに、*Shinnyū* のいふに、

歳暮抄後

卜部兼直

いふに、*Shinnyū* のいふに、*Shinnyū* のいふに、

はつりの夜

六条院宣旨

いふに、*Shinnyū* のいふに、*Shinnyū* のいふに、

聖

久世百首歳暮

大炊内右大臣

いふに、*Shinnyū* のいふに、*Shinnyū* のいふに、

月

友原季通

いふに、*Shinnyū* のいふに、*Shinnyū* のいふに、

月

待賢門院堀河

いふに、*Shinnyū* のいふに、*Shinnyū* のいふに、

月

前右衛門

いふに、*Shinnyū* のいふに、*Shinnyū* のいふに、

いふに、*Shinnyū* のいふに、*Shinnyū* のいふに、

古拓題

衣笠内右大臣

いふに、*Shinnyū* のいふに、*Shinnyū* のいふに、

博子内親王

白



宣旨

少輔源朝臣兼左近衛少将源朝臣兼左近卫少将

報恩會次感暮体懐 前中納言宣旨

左近衛少将源朝臣兼左近卫少将

右近衛少将源朝臣兼右近卫少将

大藏少将源朝臣兼大藏少将

左近衛少将源朝臣兼左近卫少将

可着

左近衛少将源朝臣兼左近卫少将

右近衛少将源朝臣兼右近卫少将

千上内番三合

右近衛少将源朝臣兼右近卫少将

左近衛少将源朝臣兼左近卫少将

日

後三位保寿

右近衛少将源朝臣兼右近卫少将

建長八年百首三亥

信交御片

左近衛少将源朝臣兼左近卫少将

右近衛少将源朝臣兼右近卫少将

后三位保寿

左近衛少将源朝臣兼左近卫少将

百首三亥

左近衛少将源朝臣兼左近卫少将

右近衛少将源朝臣兼右近卫少将

左近衛少将源朝臣兼左近卫少将

少将

右近衛少将源朝臣兼右近卫少将

宣旨元年中御入内上皇内侍感暮山内民安

左近衛少将源朝臣兼左近卫少将



文治五年入内侍内蔵幕

後法性入内侍

平家朝臣の御成敗の御成敗

日

後法性朝臣

平家朝臣の御成敗の御成敗

日

後法性朝臣

平家朝臣の御成敗の御成敗

日

三宗公朝臣

平家朝臣の御成敗の御成敗

日

隆信朝臣

平家朝臣の御成敗の御成敗

日

隆信朝臣

隆信朝臣

平家朝臣の御成敗の御成敗

堀川院時百首

隆信朝臣

平家朝臣の御成敗の御成敗

家集年暮の御成敗

隆信朝臣

平家朝臣の御成敗の御成敗

洞月

隆信朝臣

平家朝臣の御成敗の御成敗

六帖題

信實朝臣

平家朝臣の御成敗の御成敗

千首番奇合

野宮朝臣

平家朝臣の御成敗の御成敗

日

前中納言



百首抄 同

百首抄 同

百首抄 同

百首抄 同

百首抄 同

百首抄 同

百首抄 同

百首抄 同

百首抄 同

百首抄 同

百首抄 同

百首抄 同

百首抄 同

百首抄 同

百首抄 同

百首抄 同

百首抄 同

百首抄 同

百首抄 同

百首抄 同

百首抄 同

百首抄 同

百首抄 同

百首抄 同

百首抄 同



建長八年百首言合

西洞院中宰相

人よの老をむじつういふ事しきくみぬ年計言ふれ

文治五年五社百首

皇太后殿更後成

月日のさなる事なれどもね老のさる年いふは

百首言合

在為院令及二品親王

はまきいふ事なれどもね老のさる年いふは

西洞院七百首

後尊極極成

言ふ事なれどもね老のさる年いふは

南北百首言合

日

言ふ事なれどもね老のさる年いふは

百首

日

言ふ事なれどもね老のさる年いふは

〇在  
皇太后殿更後成  
皇太后殿更後成  
皇太后殿更後成

東集百首言合

東慶法如

言ふ事なれどもね老のさる年いふは

弘長元年百首言合

後九条内大臣

言ふ事なれどもね老のさる年いふは

正治二年百首

皇太后殿更後成

言ふ事なれどもね老のさる年いふは

治承三年

日

言ふ事なれどもね老のさる年いふは

言ふ事なれどもね老のさる年いふは

歳首言合

言ふ事なれどもね老のさる年いふは

言ふ事なれどもね老のさる年いふは

〇五百十六  
冬部三冊  
長一



1871

Jan 1

Went to the bank to see Mr. [unclear] and [unclear]

and [unclear] and [unclear] and [unclear] and [unclear]

and [unclear] and [unclear] and [unclear] and [unclear]

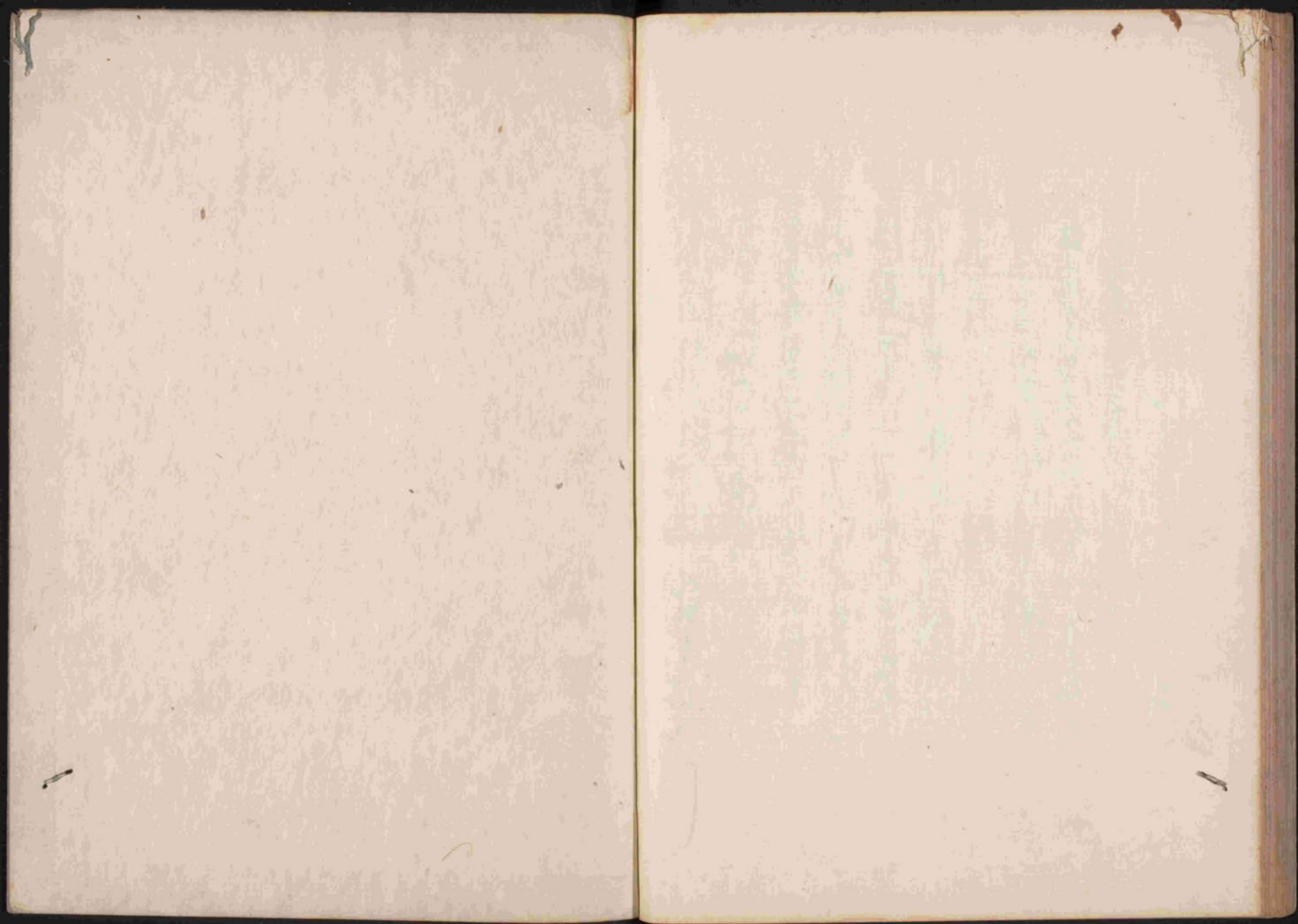
and [unclear] and [unclear] and [unclear] and [unclear]

and [unclear] and [unclear] and [unclear] and [unclear]

and [unclear] and [unclear] and [unclear] and [unclear]

1871









110X  
495  
21